



いわて生活協同組合

# 社会活動・環境活動報告書

## 2011年版

- ◎東日本大震災といわて生協の活動
- ◎2010年度いわて生協の事業と活動
- ◎2010年～2011年環境活動



# Contents

## 東日本大震災といわて生協の活動 3

- いわて生協の被害
- 緊急支援の行動
- 復興へ向けた継続的支援



## 組合員の活動 生協運営 19

- くらし助け合い ユニセフ
- くらしを守る運動・子育て支援
- いわて生協の運営



## 20周年記念事業の展開 9



## 2010年～2011年環境活動報告書 25

- 環境方針
- 地球温暖化対策
- 2010年の主な取り組み
- リサイクル



## 地産地消・産直活動の取り組み 2010年度の到達点 11



## いわて生協の事業の到達点 15

- 店舗、共同購入、共済、介護・福祉、葬祭、住まいと暮らしのサービス、南昌荘



## いわて生協のすがた2011年度 33

- 組織の概況
- 2010年度決算概況
- 事業所一覧

## いわて生協のめざすもの

私たちいわて生協は、〈地域〉〈協同〉〈食〉〈環境〉〈平和〉の5つを大切に、ひとりでは実現できないくらしの願いをみんなで話し合い、たくさん実現していくことをめざします。

### 地域

私たちは、「人間」がもっとも大切にされ、だれもが安心してくらす社会と、人と人とのつながりを強め、伝統・文化などが大切にされる地域をめざします。

### 協同

私たちは、ひとりでは実現できないくらしの願いを、多くの人や団体・協同組合との協同の力を強め、みんなで実現していくことをめざします。

### 食

私たちは、「安全・安心・健康な食生活」にこたえる運動・事業をさらに強め、食の安全と農林漁業を守り、食料自給率を高めることをめざします。

### 環境

私たちは、環境負荷を減らす事業とくらしの見直しをすすめ、子どもたちに持続可能な地球環境を残すことをめざします。

### 平和

私たちは、くらしの基本である平和を守っていくことを、未来を担う子どもたちといっしょにすすめます。

# 岩手の復興のため 力を合わせ 前進してまいりましょう。



いわて生活協同組合  
理事長 飯塚明彦

このたびの東日本大震災で被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになられた多くの方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

この大震災による被害は岩手県だけでも4兆円を超えと言われており、壊滅的な被害となった漁業を始め、岩手県の産業、経済と地域全体に与えた影響は甚大なものとなりました。

いわて生協におきましても、施設、組合員、常勤者に甚大な被害が生じました。

このような状況の中で、全国の生協や友誼団体、お取引先様のみなさまから物心両面でたくさんのご支援をいただき、被災地のくらしを支えるための支援活動を、組合員と常勤者が力を合わせて今日まですすめることができました。深く感謝御礼申し上げます。

さて、2010年度は、理事長、専務理事体制が代わり、また、いわて生協20周年の大きな節目の年でした。年間を通じて20周年記念事業が多彩に繰り広げられ、いわて生協20万人組合員と2,000名常勤者がこの20年間の協同の取り組みの成果の大きさ、そのすばらしさを実感し、あらたな前進に確信を持つことのできた一年であったと思います。

環境活動におきましては、1990年に岩手県の流通業で初めてISO14001を取得し、10年間にわたり前進し続けることができましたが、日常運用面においての削減余地が極めて少なくなっておりますことから、認証を自主返上し、そこにかかっていたコストをCO<sub>2</sub>削減のためのより直接的な設備の改善投資に回すことといたしました。一方、この大震災により、これまでの環境の取り組みが、いわば無尽蔵とも言える電力供給や、世界全体から見ればあまりにも豊かな暮らしの享受を前提とした取り組みであったことを大いに反省させられ、事業のあり方、暮らしのあり方を根本から考える機会になったと受け止めております。「どう削減するか」から「使うこと自体の是非を考える」、そういう価値観の大転換が求められていると考えており、その視点からの新たな環境の取り組みをすすめてまいりたいと思います。

2011年度は、第6次中期3か年計画の最終年度として、計画の達成をめざすこととしておりましたが、この大震災により事業経営面におきましても甚大な影響を受けましたことから、2011年度と2012年度を「震災復興2か年計画」として、岩手の復興のための事業と活動両面での取り組みと、いわて生協の経営再建に全力を挙げることにいたしました。

今こそ、協同の力を信じ、協同の組織の社会的役割・その真価を発揮すべき時と捉えて、20万人組合員みんなの力を合わせて、力強く前進してまいりたいと思います。

みなさまの一層のご支援を賜りますれば大変ありがたく存じます。

3月11日午後2時46分に発生した大地震と直後の大津波は、三陸沿岸に壊滅的な被害をもたらしました。沿岸地区のいわて生協組合員も多数被災し、残念ながら亡くなられた方やいまなお行方不明の組合員も少なくありません。いわて生協の常勤者、施設も甚大な被害を受けました。

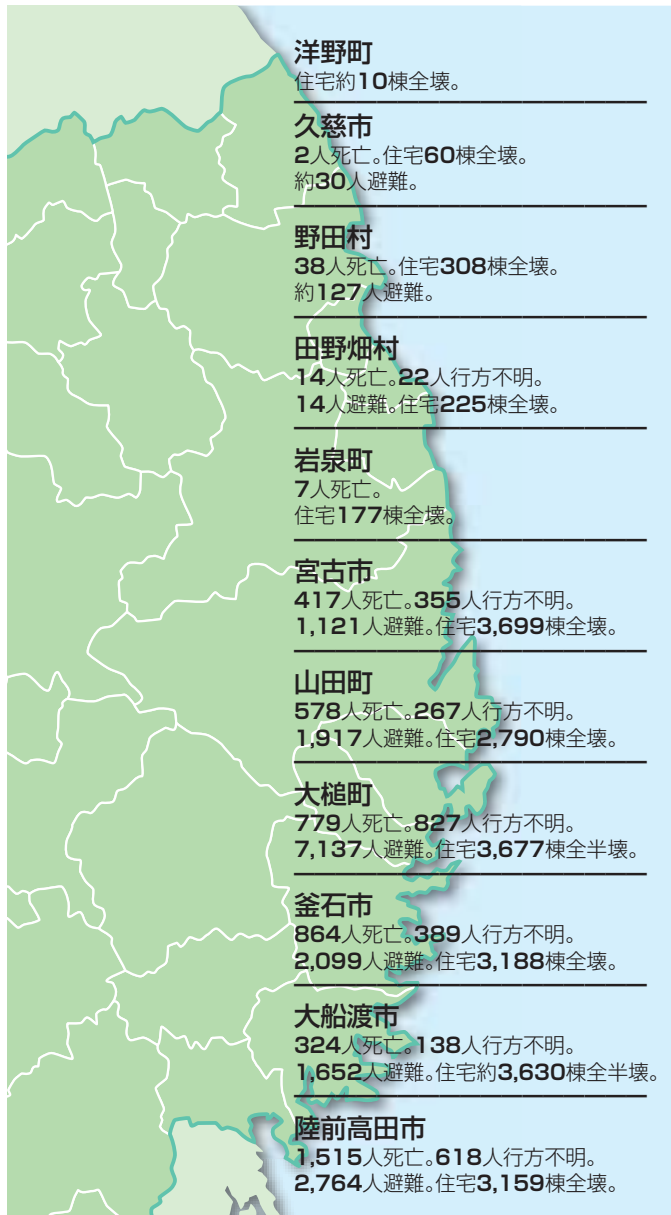
### 東日本大震災による岩手県の被災状況といわて生協の被害

被災されたみなさまに心からお見舞いを申し上げ、亡くなられたみなさまのご冥福をお祈りいたします。

#### 岩手県内の被害 (6月14日現在)

亡くなった方	4,538名
行方不明の方	2,625名
避難者数	18,641名

岩手県警調べ



### 共同購入利用組合員の被災状況

#### 共同購入沿岸4支部での安否確認の状況

調査対象(共同購入登録人数)	18,554名
亡くなった組合員	162名
安否不明の方(会えていない方含む)	2,155名
無事が確認できた方	16,237名

(2011年6月20日現在)

### こ〜ぷ委員の被災状況

こ〜ぷ委員では3名の方が亡くなられ、行方不明5名、家族死亡4名、住宅被災51名という大きな犠牲、被害となりました。

#### たすけあい共済加入者の被災お申出状況 (6月20日現在) (共済センターでの電話受け付けと加入者訪問活動による集約)

“たすけあい”加入者(沿岸地区合計)	15,807名
被災お申出の方	3,138名

#### 共済加入者訪問活動により請求をお受けした方 (4月15日～5月23日)

事故死亡	105名
家族死亡	59名
住宅全半壊	971名
住宅流出	1,090名

#### 沿岸地区の組合員組織状況 (震災前)

	組合員数	班数
久慈コープ (久慈市、普代村、野田村、洋野町)	3,259名	512班
宮古コープ (宮古市、岩泉町、山田町、田野畑村)	23,625名	1,091班
釜石コープ (釜石市、大槌町)	7,711名	835班
けせんコープ (大船渡市、陸前高田市、住田町)	6,501名	942班
<b>計</b>	<b>41,096名</b>	<b>3,380班</b>

## 委託配達員1名が死亡し多数被災 理事会と労働組合が共同のお見舞い金支給

けせん支部灯油委託配達員1名の死亡が確認された他、釜石支部アルバイト1名が行方不明になっています。常勤者の家族は、死亡が10人、安否不明が7人。住宅被害は95人（全壊44、半壊14、一部壊37）、自家用車流失は52人でした。

いわて生協理事会と労働組合は、被災常勤者に対して緊急お見舞金を支給しました（総額1,607万円）。

## 事業所・施設の修復費用は 1億3,000万円の見通し

共同購入釜石支部（2010年新設）、けせん支部（2009年新設、大船渡市）が津波で大打撃を受けたほか、店舗や本部、セリオホールで建物の損壊がありました。これらの修繕費用は1億3,000万と見積もられています（2011年4月段階）。

### 施設の被害状況

共同購入釜石支部	津波で建物浸水、建物・設備に甚大な被害。車両流失2台
共同購入けせん支部	津波で建物浸水、建物・設備に甚大な被害
共同購入宮古支部	配達用トラック2台流失
本部（滝沢村）	北棟／玄関風除室倒壊、2階一部破損 南棟／配水管漏れてFC・MC一時業務停止
コープアテルイ（奥州市）	スプリンクラー作動、空調設備落下
コープ関コルザ	防災ガラス破損、壁ひび割れ、商品散乱
ベルフ青山（盛岡市）	スプリンクラー作動、防災ガラス破損、壁、蛍光灯等落下
セリオホール中野（盛岡市）	2階通夜ホール天井一部落下
介護・福祉センターあい（盛岡市）	天井一部とガラス垂壁破損

この他に商品落下、停電による商品廃棄などの被害も多額にのぼりました。



建物は残ったものの設備に大きな被害を受けたけせん支部。



津波がつき抜けた釜石支部玄関。



プラットフォームの中まで水が入りました。



玄関風除室が倒壊した、本部北棟（滝沢村）。



津波で流されたけせん支部のトラック。

コープアテルイ（奥州市）2階書店の様子。

いわて生協は東日本大震災直後から、停電、通信途絶、燃料不足の中で出来る限りの支援を行いました。このいわて生協の活動に、全国の生協、お取引先、諸団体からさまざまな支援が寄せられました。

### 被災直後物資を県へ、被災地へ

災害時の協定に基づき、震災当日から支援物資の提供を行いました。3月11日には缶詰や菓子など300食を県へ、一関市へはカップめんなど3,000食を提供。翌12日にはバナナ、りんご、カップめん、おにぎり、カイロ、ローソク等を岩手県へ。また陸前高田市、宮古市、大船渡市、洋野町へも物資を提供しました。13日には、日本生協連からの支援により水12,000本、毛布4,000枚などを県に届けました。

その後も続々と全国から支援物資が届けられ、いわて生協の配送機能をいかして、県災害対策本部や沿岸被災地へ物資提供を続けました。



いわて生協に連日届けられた支援物資。

### 緊急支援活動のまとめ（2011年5月20日現在）

全国からの支援物資合計 1億4,187万円	県・被災自治体へ	6,215万円
	いわて生協支援行動 7,972万円	①炊き出し 30,970食 ②移動販売 120か所で実施 ③市町村災害対策本部・避難所への物資提供 ④組合員お見舞い訪問 18,000人
岩手県の要請に基づく支援活動	火葬場への灯油配送	24か所26kℓ
	セリオホールから棺等の提供	

### 店舗の営業継続に努力

大地震と余震・停電の中、各店舗では営業継続・再開への努力を続けました。盛岡地域で被害の軽微な店舗は、直ちに店頭などで供給再開。翌日12日には全店で店頭・店内で営業を再開、15日には全店店内営業に復帰しました。

被災地宮古市のマリンコープドラは、当日は避難所として支援、翌日から供給を再開。ベルフ西町も当日夕方には供給再開。着の身着のままの避難者への食事提供など、可能な限りの支援を行いました。



コープ一関コルザは店頭で供給を継続。



マリンコープドラでは高校生がボランティアで業務を手伝い。

### 共同購入利用者一人ひとりをお見舞い訪問

共同購入では、システムと物流の停止で商品供給ができない中、沿岸4支部では、お見舞い商品をお届けしながら組合員の安否を確認する活動を行ないました。



お見舞い品はとても喜ばれました。

### 炊き出しは豚丼・牛丼など31,000食

被災地への食事支援は、3月16日から組合員ボランティアによるおにぎり提供が始まり、その後も豚汁炊き出し等を継続しました。

4月1日～10日の牛丼炊き出し1万食には、さらに多くの組合員ボランティアが調理や配送、給食に参加。全国が生協による炊き出しも含めて、計31,000食を提供しました。



温かい牛丼は、どこの避難所でも喜ばれました。

## 全国36の生協・連合会から 支援やお見舞金をいただきました

### 全国の生協が支援活動を応援

震災直後から全国の生協の支援が届きました。物資に続き、16日からは人的応援も始まり、各地から共同購入トラックが集結。各被災地への物資輸送や炊き出し・移動販売、支部施設の片付けに活躍しました。



物資輸送の活動をする全国の  
さっぽろのみなさん。  
支援チーム（写真はコープ

### 支援をいただいた生協・連合会（敬称略・順不同）

コープさっぽろ、コープあおもり、秋田県北生協、コープとやま、パルシステム東京、東都生協、コープしずおか、トヨタ生協、京都生協、大阪いすみ市民生協、わかやま市民生協、生協しまね、おかやまコープ、コープいしかわ、ララコープ（長崎県）、青森県庁生協、青森県生協連、生協共立社、みやぎ生協、コープにいがた、新潟県総合生協、コープぐんま、コープネット事業連合、パルシステム連合会、コープぎふ、福井県民生協、コープしが、ユーコープ事業連合、静岡県生協連、おおさかパルコープ、ならコープ、エフコープ、日本生協連、コープみやざき、コープ共済連

### 6生協のべ76人が炊き出し

炊き出しは、いわて生協の12か所に加え、全国の6生協・連合会から、のべ76人が15か所で実施（3月24日～4月1日）。各地の避難所で温かい食事を提供し



食材も水もトラックに積み込んで岩手入りし、被災地での炊き出し。

ました。

### 物資輸送・移動販売にトラック72台参加

被災地での移動販売は、3月19日から4月2日まで110か所で実施。12の生協・連合会から、のべ160人・トラック72台が参加しました。日用品を中心に低価格で供給し、約3,300人にご利用いただきました。



釜石市での移動販売。

### 18生協・連合会から燃料の支援

震災直後から極端な燃料不足になる中で、全国から貴重な燃料支援をいただきました。提供されたガソリン



京都生協からバイオディーゼル燃料が到着（3月18日）。

4.2kℓ（3生協）、軽油16.3kℓ（9生協・連合会）、灯油28.4kℓ（10生協・連合会）、バイオディーゼル燃料8.8kℓ（2生協）は、物資輸送に大きな役割を果たしました。

### 日本生協連が岩手県に義援金8,900万円、 避難所用冷蔵庫60台も

全国の生協から集まった義援金から1,000万円を4月13日に岩手県に贈呈し、さらに第2次分として6,000万円を、第3次分として1,900万円を贈呈しました。

また、被災地自治体の要望に応じて、避難所用冷蔵庫60台を贈呈しています。



全国からの義援金を贈呈する日本生協連山下俊史会長（当時）。

### 共済加入者訪問を21生協が応援

共済センターでは、全国の生協からの応援を得て、加入者訪問活動を4月15日から開始。被害の把握のため



被災地でお一人おひとりを訪問。請のお手伝いをしました。

40日間にわたって避難所を含めて4,751軒を訪問しました。この活動に全国21生協・1共済連から97名が参加し、共済金・お見舞金の請求手続きを案内、

大震災から3か月余り。求められる支援内容も変化してきています。いわて生協は被災地のニーズを把握しながら、様々な支援活動を継続しています。

## 被災したアイコープ商品の産地・工場をお見舞い訪問

いわて生協のアイコープ商品、アイススタイル商品、産直品の産地・工場も大きな被害を受けました。三陸沿岸の水産加工品をはじめ、工場被災に加えて原料や指定配合飼料の確保が困難になっているメーカー、産地もあり、アイコープ商品で2億円、産直で2億4千万円もの供給ができなくなりました。被災した提携先23社を訪問し、お見舞金を差し上げ（総額630万円）激励しました。



田老町漁協を飯塚理事長（左端）、内澤副理事長（左から2人目）がお見舞い訪問。

## コープ・ボランティアセンター（CVC）を設置

今後の被災地への支援を強めるためにコープ・ボランティアセンターを設置。①各市町村のボランティアセンターでの活動、②岩手県生協連の窓口を通じた活動、③組合員活動で必要な活動 を対象に募集とマッチングを行っています。



お弁当ボランティアは毎週火曜日・木曜日に避難所へのお弁当づくりを継続（5～7月）。

## 「復興支援 地産地消フェスタ」開催

被災地の復興を後押ししようと、5月21日・22日の2日間、「復興支援 地産地消フェスタ」をベルフ牧野林で開催。宮古市・釜石市・久慈地域からも多数のメーカーに出店いただき、2万1千人の来場者でにぎわいました。「参加できてよかった」「来年も参加したい」との声が多

多数の組合員が来場し、三陸の物産、味を楽しみました。



く聞かれ、今年初の「地産地消フェスタ」は被災地のみなさんを大きく励ますものになりました。

## 店舗の臨時お買い物バス運行や共同購入でお買い物支援

被災者の買い物支援のために宮古市のマリンコープドラへの臨時お買い物バスを運行。宮古市津軽石地区から始まり、山田町避難所や宮古市田老地区へコースを増やしました。

共同購入では、地元の商店・業者がなくなった中で、避難所や保育施設などの食材調達を支援するため「法人利用」を開始しました。



マリンコープドラへの臨時買い物バス

### お見舞い・支援をいただいたお取引先・友誼団体（敬称略・順不同）

イノベーショントラスト、アサヒビールグループ、昭産商事、ながさき南部生産組合、住友三井オートサービス、(株)伊藤園、オーケー産業(株)、農事組合法人房総食料センター、日本販売農業共同組合連合会、モリレイ、荒川屋、よしみ農園、ケンミン食品、(株)風見、ミツヤマコンセプト&プランニング、日本食研(株)盛岡支部、(株)ハヤマ、埼玉産直センター、あづま食品(株)、タカノフーズ、(株)あけぼの通商、森永製菓(株)、サントリーグループ、ニチレイフーズ、(株)隆祥房、惣菜サミット、味の素(株)、太子食品工業(株)、ジョイ・ダイニング・プロタクツ、キリンビール、盛岡水産(株)、モランボン(株)、白石食品工業(株)、味の素冷凍食品(株)、コカ・コーラ、広東バナナ協議会、流通サービス、(株)新学社、弘前農民連、岩手県農民連、和歌山紀の川農協、コ・ジャスナ、北海道小清水産直センター、全国肉牛事業協同組合（6月20日現在 総額966万5,000円）



いわて生協のボランティア活動は現地での家屋内外の片付けや掃除のほか、炊き出し（調理や配送）、子ども向けイベントの手伝いなども予定しており、幅広く登録・参加を呼びかけています。

## 現地でのボランティア活動を本格的に推進

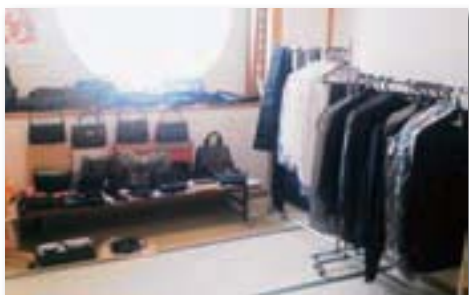
6月からは現地でのボランティア活動がスタート。6月には5回実施し、家屋内外の片付けや泥の撤去、菜の花を植える予定の河川敷の片づけ作業などを行いました。7月にも継続して実施する予定です。



震災後は、そのままになっていた家屋の片づけ作業。今後もボランティアの力が必要です。

## 被災者のための喪服やカレンダー募集も

被災地のニーズに応じて、喪服を集める活動がスタート。店舗や共同購入を通じて、また遠くは県外からも喪服やバッグ、靴が数多く寄せられ、6月中旬までに1,500人を超える方々にお渡しすることができました。仮設住宅へ入居する方のためのカレンダー集めも行い、組合員の思いから始まるいわて生協の支援活動に幅広い共感が寄せられました。



寄せられた喪服、バッグ、靴。



喪服を選ぶみなさん（宮古市マリンコープドラ和室）。

## 店舗では復興支援バザーも

ベルフ仙北（盛岡市）では、常勤者や取引業者のほか、組合員にも商品提供を呼びかけ、5月15日に第1回を、6月18日には第2回を開催。売り上げ154,874円は、全額支援募金として提供されました。



ベルフ仙北での震災支援バザー。

## 組合員の支援募金は2,900万円を超える

3月18日から店舗・共同購入で始まった組合員による支援募金は2,909万円になっています（6月20日現在）。



岩手県へ義援金2,000万円を贈呈。

この募金は5月6日、岩手県へ義援金として2,000万円を贈呈したほか、避難所への弁当支援をはじめ、今後の継続的支援に使われます。

## 店舗から被災地へ出張販売会

仮設住宅入居後の方の要望にお応えし、6月15日・16日に大船渡市内で出張販売会を実施。野菜や果物、調味料などの食品、食器や台所用品などの100円均一、衣類や寝具類などを販売し、2日間で1,100人を超える方に利用されました。全国の生協から寄せられたタオルや、組合員から集まったカレンダーの提供も大変好評でした。



けせん支部を会場に行われた出張販売会。



100円均一コーナーは大人気でした。

2010年度は、いわて生協20周年記念事業を年間を通じて多彩に展開、20万人組合員と2,000名の常勤者がこの20年間の協同の成果の大きさを確認しあいました。



この20周年ロゴマークのほか、20周年を機にサウンドロゴも制作しました。

## 全16コープで生協まつりなど 記念企画を開催

20周年を記念して初の生協まつりを開催したにのへコープ、「コープフェスタinやまぎし」開催の盛岡中央コープなど、全16コープが21企画を開催。合わせて9万1千人以上が参加し、協同の成果と大切さをあらためて実感できました。



にのへコープ初の生協まつり。

## 岩手県産にこだわった商品を51品目 開発・改善

20周年を記念し、岩手の食材・食文化にこだわった「うまいわて」シリーズ商品22品目を、地元メーカーと共同開発しました。アイコープ・アイススタイル商品の開発・改善や数量限定・期間限定商品と合わせて51品目を発売。約1.4億円の利用となり、岩手県産品の利用拡大につながりました。



「うまいわて」商品ロゴマーク



2010年度の開発商品。

## アイコープ商品の良さを 広げる取り組みも

アイコープ商品100品目から20品目を選ぶ組合員投票を4月に実施。2,461通の投票で決まった「ベスト20」商品の普及に店舗・共同購入で取り組みました。

### 「私のお気に入りベスト20」投票結果

1位	さくら卵
2位	生協牛乳
3位	真崎わかめ
4位	県産もめん豆腐
5位	つゆ4倍
6位	県産大豆納豆
7位	だしたっぷりつゆ3倍
8位	食パン
9位	にがり充填とうふ
10位	わたしたちのリサイクルトイレットロール



## アイコープ商品製造委託工場訪問ツアー

産地視察に観光・おみやげ・昼食付きで楽しむ訪問ツアーは121人が参加。アイコープ商品への理解とか愛着とかが深まる企画でした。



「わたしたちのリサイクルトイレットロール」のメーカー、上山製紙を訪問。

2010年6月5日	湯田牛乳公社、わらび採り、深沢巖雄記念館の旅	31名参加
6月26日	上山製紙、狛鼻浮舟下り、巖美溪の旅	31名参加
9月25日	田老町漁協、かに食べ放題、三陸鉄道の旅	30名参加
10月30日	佐々長醸造、りんご狩りの旅	29名参加

## みんなの利用を強める取り組みを推進

20周年を機に店舗・共同購入でみんなの利用を高める取り組みを推進しました。店舗では、「大創業祭」（4月）、「みんなの利用デー」（年3回）、「あったかフェスタ」（2月）を開催。共同購入では、「大創業祭」企画（7月）で注文書発行全員の利用を目標に取り組み、97%と過去最高の利用率を実現しました。



「みんなの利用デー」でにぎわうベルフ青山。

## 「サンリオファミリークラシック」に親子1,050人

若い世代の組合員家族向けの企画として、クリスマス時期(12月23日)に開催した音楽会は、昼夜合わせて1,050人の親子が鑑賞。子育て世代といわて生協の接点を広げる楽しい企画となりました。



親子でクラシックを楽しむんだ「リボンの国の音楽会」。

## 内館牧子さん講演会には970人

11月8日に開催された内館牧子さんの講演会には970人の組合員が参加し、幅広く活動が続ける内館さんのお話に耳を傾けました。



「自分が気持ちいいと思える生き方が、自分らしい生き方」と語った内館牧子さん。

## 松元ヒロライブや森永卓郎さん講演会など平和を考える企画も

松元ヒロさんのライブステージは、7月に陸前高田市、宮古市、久慈市、滝沢村の4会場で550人が参加。あわせてNPT(核兵器不拡散条約再検討会議・ニューヨーク)での平和行動に参加した組合員2人の報告も行い、様々な視点から平和への思いを深めました。

また、8月10日には森永卓郎講演会を開催。沖縄の基地問題が混迷する中で、平和について考えました。

「森永卓郎 平和を語る」  
「基地、核兵器、戦争と不況」と題して講演。



松本ヒロさんライブステージ。

## DVD「20年の歩み」が組合員・常勤者の確信に

生協の創業期の組合員の想いや、20年の歩みをつづった記念DVDを全常勤者が鑑賞。若い常勤者にとっては初めての談話や写真での20年史に「生協の目指すものが再確認できた」「生協で働いていることを誇りに思う」などの感想が出されました。また「秋のコープのつどい」、「お茶会」でDVDを観た組合員からも「協同の大切さを実感できた」の声が多数寄せられました。



創業期の想い学習会(介護・福祉センター「あい」)。

### その他の20周年記念企画から

コープトラベル  
「憧れの都ローマ6日間」



イタリアのコープの店でお買い物。

南昌荘  
庭園ライトアップ



開館10周年で庭のライトアップ。

コープの森づくり



20周年を記念して「コープの森づくり」がスタート。

みやこ秋まつり



275人の参加で「最優秀賞」。

### 2010年度は開発19品目、改善4品目 供給高15.8億円に

アイコープ商品・アイススタイル商品はいわて生協が独自に開発、供給している商品です。

できるだけ岩手県産・国産原料を使用し、できるだけ岩手県内の工場で製造することを基本にしています。地場産業・商品の発展に貢献することも生協の重要な役割です。



2010年度の商品開発はアイコープ商品18品目（前年5品目）、アイススタイル商品1品目（前年1品目）。改善はアイコープ商品3品目（前年4品目）、アイススタイル商品1品目（前年1品目）でした。20周年の年に組合員の商品活動が活発になり開発商品が増えたことが特徴でした。

この結果、開発商品の供給高は15億8千万円になり、該当部門における供給構成比は7.2%（前年7.5%）でした。

### 58工場の点検を実施

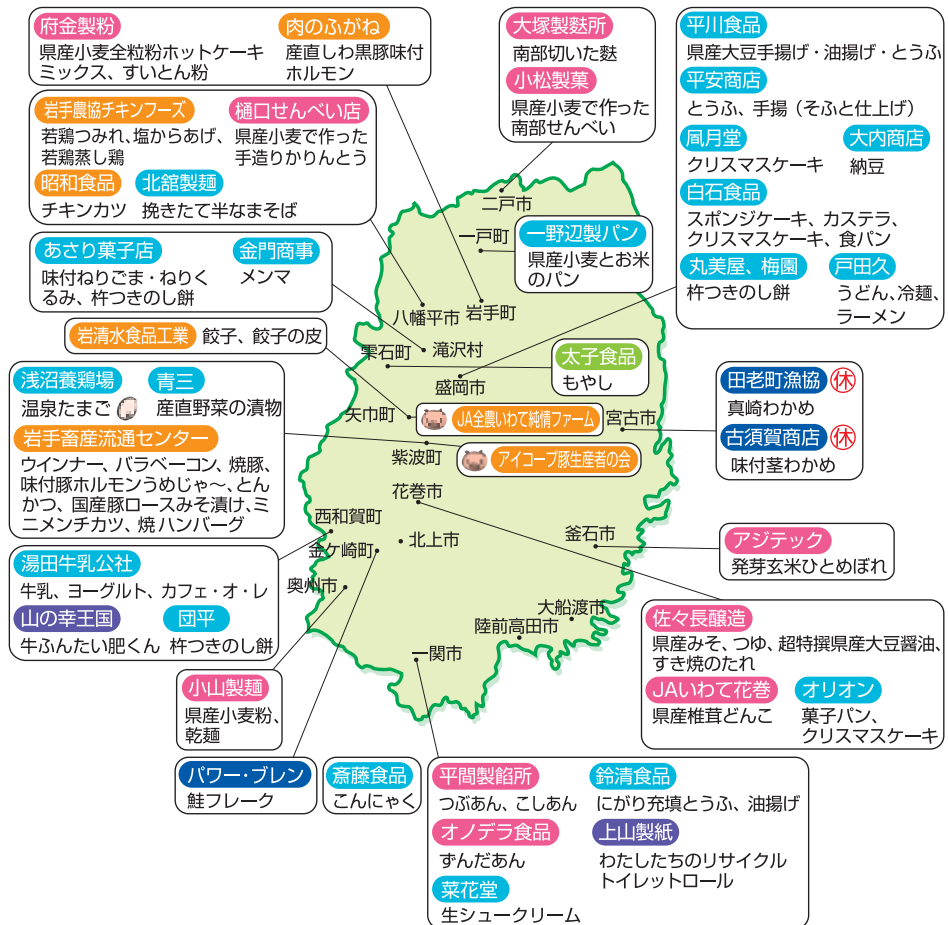
アイコープ商品、アイススタイル商品の工場点検は、原料管理や衛生管理を中心に実施しました。管理状態に問題がないことを確認し、さらなる向上へ向けた改善要望を行いました。

アイコープ商品・アイススタイル商品の供給実績(2010年度)

分類	部門供給高	アイコープ・アイススタイル商品供給高	アイコープ・アイススタイル商品構成比
農産(野菜)	24.1億円	0.3億円	1.2%
水産	36.5億円	1.4億円	3.8%
畜産	26.4億円	0.9億円	3.4%
日配	58.6億円	10.7億円	18%
米	4.9億円	1億円	20%
食品類	26億円	1.2億円	4.6%
菓子・嗜好品	24.8億円	0.1億円	0.4%
雑貨類	18.4億円	0.1億円	0.5%
合計	219.7億円	15.8億円	7.2%

※開発商品がない部門分類は記載していません。  
※産直生協牛乳群と真崎わかめを含みます。

地元メーカーとの共同開発マップ(2011年4月時点)



⊗は大震災の影響で商品製造ができなくなっているメーカーです。(5月20日現在)

## 「地産地消フェスタ」4会場に 8万1千人

20周年を記念して地産地消フェスタを例年のコープ一関コルザ（6回目）、アテルイ（奥州市・3回目）に加え初めてベルフ牧野林（滝沢村）、マリンコープドラ（宮古市）でも開催。どの会場も生産者、メーカー、JA、行政（地方振興局）関係、福祉団体など、幅広い出店参加があり、県産品を広げる大きなイベントに育ってきています。また地元の郷土芸能保存会や高校音楽部の出演もいただき幅広い交流の場ともなっています。



ベルフ牧野林での「地産地消フェスタ」。



マリンコープドラで初めて開催された「地産地消フェスタ」。



6回目を迎え恒例となったコープ一関コルザの「地産地消フェスタ」。



コープアテルイの「地産地消フェスタ」では20万人目の組合員が誕生しました。

### 2010年度地産地消フェスタ概況

開催店舗	開催日	来場者数
ベルフ牧野林	5月15日・16日	25,000人
コープアテルイ	9月18日・19日	18,000人
マリンコープドラ	10月 2日・ 3日	20,000人
コープ一関コルザ	10月16日・17日	18,000人

## 地産地消の幅を広げて「市」も開催

「みやこうまいもの市」はベルフ仙北、ベルフ青山に加えてベルフ牧野林でも開催、3会場に増えました。計9回開催し、宮古地方を中心とした製品の普及の力になっています（16団体出店）。

2年目を迎えた「にしわが 山の市場」はベルフまつぞので4回開催。山の恵みが人気です（10団体出店）。

コープアテルイで続けている「あべじゃネットフェア」は2010年も6回開催。福祉作業所のみなさんも含めた交流と商品普及の場になっています（14団体出店）。



2009年度から開催し大好評の「にしわが山の市場」（ベルフまつぞの）。

## さまざまな場面で商品を学習・交流

「初夏のコープのつどい」（5,336名参加）ではアイコープ南部せんべい、「秋のコープのつどい」（6,245名参加）では県産小麦を使った商品の試食や学習を行い、アイコープ商品のよさを確かめ合いました。また、産地・工場見学は各コープで48企画が実施され、1,041人が参加しました。



「秋のコープつどい」でシフォンケーキづくり（盛岡西コープ）。

いわて生協の産直活動は、生産者と組合員（消費者）が交流を通してお互いの生産と生活の実情を知る、「顔と暮らしの見える」関係づくりを大切にしています。また日本の農業と食料を守り発展させていく産直運動として推進しています。

## 県内のJA・生産者団体32グループと提携しています



### いわて生協の産直三原則

- 1 生産地と生産者が明確であること
- 2 栽培、飼育方法が明確であること
- 3 組合員と生産者が交流できること

### いわて生協 産直基準

- 1 組合員の参加を強め、組合員の願いを商品づくりに反映させます。
- 2 「地産地消」の取り組みを強め、岩手の農林水産業を守り発展させることに貢献します。
- 3 組合員と生産者が自立・平等の立場で、お互いに発展できることをめざします。
- 4 産地、生産者、生産・流通方法を明確にし、情報を公開します。
- 5 生産方法などを記録し、定期的に点検・検査を行います。
- 6 後継者育成や、環境負荷低減（農薬の削減など）を支援します。

### 2010年度の産直品実績

分類	部門供給高	産直品供給高	産直品構成比
①果物	12.3億円	0.5億円	4%
②野菜	24.1億円	5.8億円	24%
農産(①+②)	36.4億円	6.3億円	17%
③水産	36.5億円	0.4億円	1%
④畜産	26.4億円	6.2億円	25%
⑤日配	62.1億円	9.9億円	16%
⑥米	4.9億円	2.6億円	52%
合計	162.3億円	25.6億円	15%

※農産（果物・野菜）は、県内の産直品（顔と暮らしの見える産直品）の実績です。

※日配は、朝配達牛乳含みの実績です。

### 産直提携マップ



### 産直野菜は「農業使用基準」を定めています

<b>排除農薬</b> 使用禁止する 14農薬	NAC、ベンゾエピン、ジメトエート、2,4PA、ジネブ、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、カルベンダゾール、マラソン、クロルピクリン
<b>排除目標農薬</b> 排除に向けて計画的に 努力する7農薬	DDVP、キャプタン、ダイアジノン、ペノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン

## 産直品供給高は25.6億円に 産直収穫祭を共同購入で初開催

2010年度は天候不順による野菜収量減、黒豚の出荷頭数減少、米の価格低下などマイナス要因が多い中で、店舗・共同購入で産直品普及をすすめ、25億円を超える供給高となりました（前年比95.3%）。

店舗での産直収穫祭は、2010年度も産直品の旬に合わせて4回開催し、産直品の供給と情報発信に力を入れました。



共同購入で初めての産直収穫祭商品案内チラシ（2010年10月2週企画）。

## 飼料米を与えた産直アイコープ豚、 産直さくら卵が登場

食料自給率向上をめざし、飼料米を与えて飼育した産直アイコープ豚（飼料米5%）の供給が2010年7月からスタート。

さらに2011年2月からは、飼料米を与えて飼育した産直さくら卵（飼料米3%）の供給が始まりました。

※ただし、震災により給餌の中止や飼料米比率を低下せざるを得ない状況になっています。



飼料米活用の取り組み調印式。

## 産直との交流企画には1,341人が参加

組合員と産直産地との交流が活発に行われ、58企画に組合員4,341人が参加。このうち産直米交流会は5コープ（昨年は4コープ）から5産地へ組合員300人が参加。田植えから収穫まで米作りを体験交流しました。



田植えをした後、記念撮影（花巻市の南すぐね鈴木さんと）。

## 生協牛乳ふるさと訪問、 牛乳ソムリエセミナー

生協牛乳ふるさと訪問は2回開催（西和賀町、金ヶ崎町）し、59人が参加。牛乳ソムリエ養成セミナー（西和賀町）は2回実施して計41人が修了しました。



牛乳ソムリエセミナーで乳製品表示を学習。

## 公開安全確認会を31産地で開催

産直品の栽培や肥育、生産の約束事が守られていることを組合員もいっしょに確認するため、2003年度から実施。2010年度は31産地の確認会に、組合員169人が常勤者とともに参加。生産の詳しい説明を開き相互確認を行いました。

盛岡甘熟会の公開安全確認会には釜石コープの組合員が参加。



## 業務確認会・監査員養成セミナー

「農産物品質保証システム」中の「流通規範＝供給規範」が策定され、これに基づいての業務確認会が初めて行われました。店舗・共同購入での産直品の取り扱い（入荷、加工、保管、供給）の状況を確認。また監査員養成セミナーも引き続き開催しました（県内3か所で73人が受講）。

店舗での取り扱い状況を生産者と組合員がいっしょに確認。



## 店舗事業

### 念願のベルフ西町建て替えオープン

2010年7月宮古市にベルフ西町がオープン。老朽化し建て替えが必要だった旧コープ西町が、地権者、関係者の協力を得てベルフ型店舗に生まれ変わりました。同地区は宮古市で生協運動の歴史が最も長い地域で、待ち望んできた組合員は喜びひとしお。3月11日の大震災にも耐え、当日も営業を継続し地域住民・組合員の暮らしを支えました。



2010年7月にオープンしたベルフ西町。

### お買い物バスの拡充、配達サービスで高齢者を支援

高齢組合員への買い物支援はますます重要になっています。2010年度はお買い物バスの増便、コース・時間の見直し等を進め利便性を高めてきました。年間利用者数は28,284人と前年より1割以上増加。また、2011年3月からは全コースで5%値引きの日も運行し、喜ばれています。



増便が好評の買い物バス

店舗でのお買い上げ品を当日お届けする配達サービスは、年間28,721件の利用（前年比110%）がありました。ベルフまつぞの（14,000件）、ベルフ山岸（5,700件）などで利用が増加しています。

### 組合員や地域住民の活動交流の場に

店舗に併設されている組合員施設を会場に、サークルや「くらぶ」が活動。また、子育て支援の活動、福祉助け合いの活動の場にも。地域の絆や社会的連帯がこれまで以上に大切になる時代を迎え、「協同、交流の場」としての役割が高まっています。



いけばなサークル（コープアTELイで）

### リサイクル回収量が過去最高に

いわて生協の店舗はリサイクル回収品目が多く、組合員のリサイクル活動の拠点となっています。2010年6月から、アルミ缶・スチール缶回収も開始し、店舗での各種回収量は年間195トンと過去最高になりました。2011年4月からは、組合員家庭からの廃食用油回収もスタート。さらに盛岡市内店舗では市との協力で蛍光灯・乾電池回収も行っており、廃棄物減量に大きな役割を果たしています。



お買い物のついでに回収ボックスへ。



2011年6月「エコ月間」でリサイクルへの参加をよびかけ。

### 商品や店舗運営に関する組合員の声集約

組合員の声を「声の記録」で集約しています。2010年度は6,183件が寄せられ、日常の仕事改善にいかしています。

商品・運営に関する苦情	721件
おほめ・感謝の声	767件
意見・要望	1,514件
お問い合わせ	2,656件
その他	525件
計	6,183件

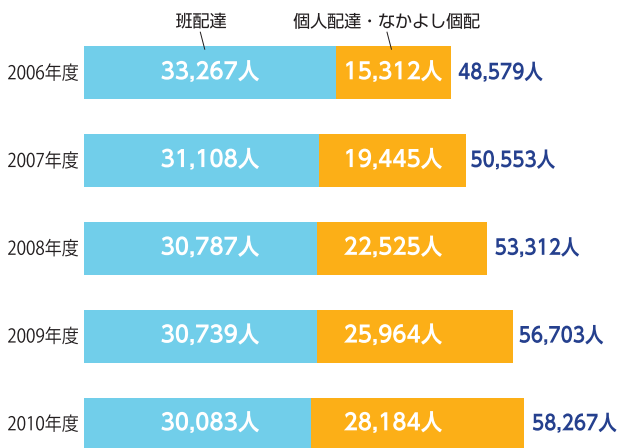


## 共同購入事業

### 5年連続で1万人以上の利用者拡大に

共同購入事業は商品案内チラシを見て注文、翌週配達されるしくみです。2010年度は利用者が13,187人増加し、注文書発行数は年度末に58,267人と増加。県内世帯比は11.5%まで高まりました。週平均の実利用者は52,382人（前年比106.1%）で、20周年特別企画週（10年7月第2週）では過去最高の56,799人が利用しました。

利用者数（各年度末のOCR発行人数）



### 個配優遇制度を被災者へも拡充

個配優遇制度は赤ちゃんがいるお母さんや高齢者、障がいのある方を対象に、個配配達料を1回100円（通常は1回240円）にするもの。2010年度は介護優遇もスタートしました。

優遇対象者（配達料金が1回100円に）	利用人数
母子手帳が発行されてから、満3歳の誕生日までのお子さんがある方	2,859人
70歳以上で単身、または夫婦世帯で一方が70歳以上	5,237人
障がい者手帳をお持ちの方がいるご家庭	2,888人
介護保険対象者	314人
計	11,298人

さらに2011年6月からは大震災の被災者支援サービスとして沿岸地区の個配利用者も対象に。期間は2年間です。

### 環境対応が進み、廃棄物ゼロ事業に近づく

共同購入では通い箱や冷却材、内袋など供給資材に加えて、商品案内チラシや牛乳パック、トレイ、卵パックを回収・リサイクルしています。2011年4月からはBDF原料用に組合員家庭からの廃食油回収もスタート。商品セット時の農産葉くずやわずかな可燃ごみを除き、ほぼ廃棄物ゼロの事業に近づいています。

### 灯油事業はホームタンク洗淨メンテナンスが好評

灯油は配達登録者が45,149人となり、34,594klを供給。急激な原油高や大雪、大震災による灯油不足と困難な中での供給業務でした。

こうした中で、組合員家庭のホームタンク洗淨メンテナンスは年間384世帯の利用と好評。洗淨専用車導入以来の累計実施件数は688件となりました。



専用車で家庭のホームタンクを洗淨サービスを実施。



### 朝配達牛乳は引き続き減少

朝配達牛乳の利用人数は、配達コースを整理したことにより12,552人（前年比96.7%）となり、引き続き減少していました。

大震災で沿岸各市で中心市街地が被災し、配達先、配達網が大きな打撃を受けましたが、6月に供給を開始しました。（一部は再開できず、中止のコースもあります。）

## 共済事業

### 日々の暮らしの確かな支え 共済金支払い7億7,500万円に

《たすけあい》共済、《あいびらす》共済の増加に加えて《新あいあい》の普及も本格的に始まり、共済加入件数は93,310人（前年比105.6%）となりました。共済金の支払い件数は11,773件（前年比103.0%）、支払い金額は7億7,574万円（前年比117.6%）に増加。日々の暮らしの支えとして大きな役割を果たしています。

### 「共済カウンター」が計3店舗に

店舗の共済カウンターをベルフ牧野林に続き、2010年度はコープアテルイ（4月）、ベルフ仙北（7月）にも開設。気軽に共済諸手続きや相談ができ好評です。

### ピンクリボン運動にも取り組みました

ピンクリボン運動は、乳がんの正しい知識を広め、検診や早期受診普及などを目的とした啓発活動。共済センターでも積極的に取り組みました。

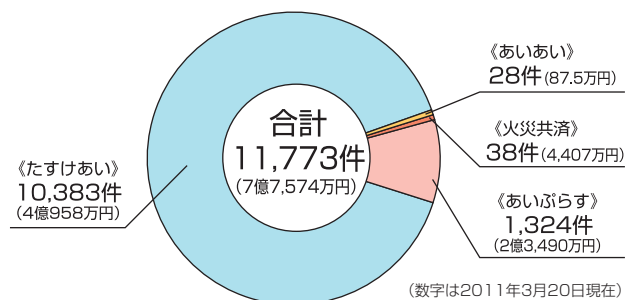


店舗でのピンクリボン運動

### 共済加入件数（2010年度）

種類	加入件数	純増	保有件数	前年比
たすけあい	7,861件	2,194件	65,741件	103.5%
あいびらす	4,100件	2,655件	22,350件	113.5%
火災共済	336件	132件	4,752件	102.9%
新あいあい	78件	78件	350件	128.7%
あいあい	募集終了	▲88件	117件	57.1%
合計	12,276件	4,971件	93,310件	105.6%

### 共済金の支払件数（2010年度）



## 介護・福祉事業

### 高まる介護需要に体制を強化

着実に事業実績を積み重ね、2009年度に黒字転換した介護・福祉事業。2010年度は、今後急速に高まる介護ニーズに備えて、さらなるスキルアップと体制の強化を進めました。居宅介護支援ではケアマネージャーが8人体制になり、相談・援助にすばやく対応できるようになっています。介護福祉相談窓口での対応も108件にのびります。訪問介護事業ではヘルパー23人になり、事例検討会を重ねて信頼される介護をめざしてきました。

### 2010年度の実績

事業	利用者数	前年比
居宅介護支援(ケアプラン)	3,443人	126%
訪問介護	956人	113%
福祉用具貸与	1,536人	131%

### 「認知症サポーター講座」を内部で継続開催

常勤者を対象に年間36会場で59回開催し、781人が認知症の方への対応や支援の方法を学びました。昨年度受講者と合わせて、824人がサポーターとなりました。



店舗で開催された認知症サポーター講座。

## 葬祭事業

### 4館目のセリオホールが宮古にオープン

セリオ葬への組合員の期待は「人生最後の儀式をまごころ込めて」「納得できる適正価格を」。高齢社会を迎え、住環境や家族構成の変化もあり、通夜・葬斎会館への期待は県内全域で強まっています。こうした声に応えて、セリオホールみやこが2011年6月にオープン。盛岡地域以外で初の開設となり、沿岸地域組合員から歓迎されています。

#### 2010年度の利用状況

セリオホール中野	228件
セリオホールみたけ	216件
セリオホール緑が丘	111件
セレモニーホール	6件
花巻・北上	25件
合計	586件

(2009年度は合計521件でした)



セリオホールみやこ 通夜会場。

セリオホールの利用は年間555件と増加し続けています。JA北東北「セレモニーいわて」や花巻市・北上市での地元業者との提携事業での実績も31件になりました。墓石、仏壇をはじめ葬儀用品の供給、葬儀に関する相談、啓発活動も引き続き強めています。



セリオホールみやこ 外観

## 住まいと暮らしのサービス事業

「家電センター」は業務を拡大し、2010年度より「住まいと暮らしのサービスセンター」に名称変更。地元を中心とした業者との提携により住関連、省エネ設備、家電をはじめ、生活の幅広いシーンにきめ細かく対応しています。

#### 主なサービス内容

- エクステリア全般
- エコガラス全般
- 配管クリーニング
- ガス器具、石油給湯器
- シロアリ対策
- 太陽光発電
- 引越し各社あっせん
- 車検、タイヤ
- めがね
- ストーブ分解掃除
- ピアノ調律
- 家電全般

### 公開10周年を迎えた南昌荘

盛岡市「保護庭園」「保存建造物」の指定を受けている南昌荘は、いわて生協の発足10周年記念事業として2000年より一般公開をスタート。以来、多くの市民や観光客の安らぎの場として、また近年は様々な作品展や催し物の会場としても人気が高まり、2010年度は16,354人が入園。公開以来の累計入園者は199,593人となっています(2011年3月20日)。

- 休館日 / 月・火曜日 年末年始
- 開館時間 / 10～17時 (12～3月は16時)
- 入園料 / 大人200円 小・中学生100円



明治18年頃、盛岡出身の実業家瀬川安五郎の邸宅として建てられました。盛岡では数少なくなった明治時代の建物で、保存を望む多くの声に応えていわて生協が保有、維持管理と公開を行っています。

組合員のくらしをめぐる状況はきびしさを増しています。いわて生協は、円高差益還元による灯油値下げを求める運動や消費税の増税反対の取り組みなど、くらしを守る活動を続けています。また県内諸団体と共同して、農林漁業を守る活動や平和・核兵器廃絶を求める運動をすすめています。

## 「コープくらしの助け合いの会」は 会員1,200人に

組合員の「困ったときはおたがいさま」の気持ちを出発点に、1992年に発足した有償ボランティアの会員組織です。高齢者、産前・産後の方、障がいを持っている方を対象に、掃除・洗濯、片付けから食事づくりや話し相手、託児や乳幼児のお世話など幅広く活動。現在会員数は県内10支部で1,200人を超え、年間活動時間は20,800時間（前年20,873時間）となっています。

乳幼児のお母さんを応援。



2011年度からは活動単位を1単位2時間から1単位1時間に変更、さらに利用しやすく改善し、ボランティア参加の輪を広げていくことにしています。

## 盛岡医療生協と共同で 「ふれあいお茶っこ会」

1999年から始まった「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共同ですすめるミニデイサービス活動。血圧測定、昼食、おしゃべりやレクリエーションで楽しいひとときを過ごします。2010年度は生協店舗など13会場で101回開催。お手伝いするボランティアは年間のべ1,528人になっています。2011年度は、エリア活動を盛岡、矢巾地区から拡大していくことをめざしています。



誰でも参加できる「ふれあいお茶っこ会」。

## 「傾聴ボランティア養成講座」 修了者が110人に

2008年からの「傾聴ボランティア養成講座」は25時間のプログラムを受講し、傾聴のスキルを身につけるための講座です。2010年度は、NPO法人オールケアファミリーから専門講師を招き、県南エリア（奥州市会場）で開催。29人が修了し、開講以来3年間の修了者は110人になりました。2011年度は沿岸地域での開催をめざします。



奥州市での「養成講座」の様子。

## 誰でも気軽に参加「ふれあいサロン」

傾聴ボランティア養成講座修了者を中心に、誰もが気軽に集まれる地域のふれあい交流の場として、生協店舗で開催。コーヒーやお茶を飲みながら、おしゃべりを楽しみます。盛岡医療生協の協力で健康チェックや骨量チェック、セラバンド体操なども行っています。お買い物ついでに気軽に立ち寄り。



★2010年度は2会場で開催

ベルフまつぞの	第3火曜日 10:00 ~ 12:00
ベルフ青山	第3水曜日 10:00 ~ 12:00

## いわて生協は非営利の助け合い組織を応援しています

### くらしいきいき応援隊

働く人が資本と労働力を持ち寄り、みんなで運営していく「ワーカーズ・コープ（働く人の協同組合）」。

「自分のできることで役に立ちたい」「定年後もまだまだ元気に働きたい」といった方が参加しています。2010年度は、102人が11,334時間を超える応援を行いました。



大雪で雪かきの仕事も増えました。

### NPO法人もりおか配食サービス

「一日一食だけでもしっかりとした食事が取れるので安心です」の声を励みに、お弁当を届けて11年。45万食を超えました。

いわて生協から仕入れた食材を使い、栄養バランスを考えて食材は多品目、塩分・カロリーを控えています。ボランティアが一声かけながらお届けしています。



ボランティアのみなさんが活動を支えています。

会員数（2011年3月現在）

利用会員	382人
協力会員	70人
賛助会員	218人
計	670人

■営業日数 / 248日

■配食数 / 1日あたり(平均)220食

■利用人数 / のべ5,949人 54.613食

## 灯油の適正価格、福祉灯油実現を求めて行動

灯油の価格高騰が続く中、2010年11月「円高差益還元を求める緊急灯油集会」（県生協連主催）に150人が参加し、アピール行進も行い円高差益還元による灯油値下げを訴えました。また「福祉灯油」の実施を求めて県議会への請願や岩手県や県選出国會議員への要請を行いました。



円高差益還元を求めてアピール行進。



福祉灯油実施を岩手県に要請。

## 食と農を守る運動を県内の団体とともに

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に対して「日本の農業、食料、地域経済に深刻な影響を与える」として、いわて生協理事会で反対声明を決議。県内40団体で結成し「TPP等と食料、農林水産業、地域経済を考える県民会議」に参加し、2011年3月には「TPPを考える県民フォーラム」や署名活動などに共同で取り組みました。また、米価大暴落の事態に対して、「いわて食・農ネット」で共同し、国や自治体等への要請行動を行いました。



「TPPをを考える県民フォーラム」で基調講演を行う内橋克人さん（経済評論家）。

## 組合員の代表をヒロシマへ派遣

8月には「ピースアクションinヒロシマ」に組合員代表24人（子ども10人を含む）が参加。被爆地ヒロシマで被爆者の声や傷跡を学び、全国の生協、世界からの参加者と交流しました。



原爆ドームをバックに平和公演で。

## 2.26世界の平和を願う市民のつどい in岩手

イラク戦争を機にスタートし、毎年開催している「世界の平和を願う市民のつどい」（実行委員会主催）。普天間基地を抱える宜野湾市の前市長伊波洋一さんを講演者に迎え、2011年2月26日に開催しました。沖縄の基地の現実を学び、武力で平和を築くことはできないことを確認しあいました。

伊波洋一さんが「沖縄からの証言」と題して講演。



## 住みよい地域づくりをめざして 11市町村で首長懇談会を開催

行政への要望やいわて生協への期待などを話し合う場として、市町村長との懇談会を行っています。2010年度は「消費者行政の充実・強化」を統一テーマに、また各コープでは「福祉灯油」や「若者の雇用対策」などをテーマに懇談しました。



二戸市の小保内敏幸市長との懇談（2010年10月25日）。

## 「いのちの山河」上映運動 大きな広がりの中で終了

いわて生協もすすめてきた映画「いのちの山河」製作・上演運動は、2010年度も地域の団体のみなさんと一緒に釜石市、陸前高田市、大船渡市など7会場で上映し、5,913人が鑑賞。この2年間で13市6町1村で上映会が行われ、鑑賞者は24,631人になりました。

いわて生協はユニセフ（国連児童基金）の活動に参加し、世界の子どもたちの現状を知る活動や、募金活動を続けています。2010年度は「ハンド・イン・ハンド」活動に参加する中学、高校のボランティアが増えました。

## ユニセフ募金は302万円

2010年度のユニセフ募金は、店舗・共同購入を通じての「ファミリー募金」や12月の街頭募金「ハンド・イン・ハンド」などにより、302万7,110円が寄せられました。このうち200万円が、「ネパール指定募金」としてネパー

ルの母親と子どもたちへの支援のために使われます。

### 2010年度ユニセフ募金

ファミリー募金	1,584,576円
お年玉募金	434,687円
ハンド・イン・ハンド	779,499円
その他	228,348円
緊急募金	0円
<b>募金総額</b>	<b>3,027,110円</b>
<b>累計</b> (1990～2010年度)	<b>96,288,217円</b>

## 「ハンド・イン・ハンド」活動に602人のボランティアが参加

12月恒例の街頭募金「ハンド・イン・ハンド」募金は26会場で実施し、ボランティア602人が参加。子どもたちの参加が430人（2009年358人）に増え、元気に世界の子どもたちへの募金を呼びかけました。



釜石市内で募金を呼びかけた高校生。



久慈市でのハンド・イン・ハンド。

## ブータンでの支援を視察・報告

ユニセフ募金がどのように使われているかを現地確認するスタディツアーに、組合員の代表1名が参加。ブータンの暮らしぶりや子どもたちの教育・衛生環境について視察し、報告集会を県内6か所で行いました。



募金でトイレ、シャワー室を設置した僧院を訪ねる梅沢常務理事。



矢巾町公民館でブータン視察の様子を報告。

## 東日本大震災でユニセフ岩手事務所開設、50年ぶりに日本で活動

東日本大震災でユニセフ本部（ニューヨーク）は日本支援を表明しました。この呼びかけに世界中から約20億円の募金が寄せられ、戦後混乱期以来約50年ぶりに日本で支援活動が行われています。

被災地の子どもたちに衣料品、絵本、おもちゃ、ランドセル、スポーツ用品、学用品等を届けたほか、保育園再開支援など多様なニーズに応える活動をすすめています。

4月には、岩手県での支援を継続するため岩手事務所を盛岡市に開設。数名のスタッフで、今後子どもたちに必要な支援を続けることにしています。



避難所を訪ねて子どもたちの様子や必要な援助を聞くユニセフのスタッフ（大槌町で）。

子どもたちのために、またお母さんやお父さんの子育てを応援するために、こんなことができたらいいな…という思いを協同の力で一つひとつ実現し、広げています。

## 「コープ子育てひろば」 300組の親子が参加

乳幼児を持つママたちが子どもと一緒にリラックスできる「親子の遊び場」です。「ホッとできる」「組合員ボランティアスタッフの心づかいもうれしい」と好評です。2010年度は5店舗の会場で月1～2回のペースで開催し、301組の親子648人の参加となりました（年間では90回開催）。

### 〈開催店舗〉

- ベルフ仙北
- ベルフ山岸
- ベルフまつぞの
- ベルフ青山
- コープー関コルザ



## 子育てママ応援企画を多彩に開催

若い年代のお母さんたちを対象に、各コープが主催し多彩なテーマが取り上げられています。「スキンシップリズム体操」「ベビーダンス」「スイーツデコ教室」など参加者のニーズを大事に企画され、2010年度は41企画が行われ795人が参加しました。地域のこ〜ぶ委員のみなさんが親子で参加する企画や託児付企画の活動を支援しています。



「おやつ教室」のひとつ。

## 30人学級の拡充を求めて

子どもたちの学習環境の向上のために、「30人学級を実現する岩手の会」といっしょに岩手県への要請活動を続けています。2010年度は国も31年ぶりに小学校1年生を35人学級に見直す動きの中で、この動きをさらに加速しようと署名活動にも取り組み6,788筆を提出しました。岩手県では小学校1年と2年で35人学級を実現、中学校1年で試行実施されています。

## ポラン農業小学校（子ども農業体験）

西和賀の豊かな自然の中へ毎月2回、農作業のために通います。田植え、除草、稲刈りなどの畑仕事や、収穫した大豆でのみそ、豆腐づくり…。子どもたちの生きる力を育もうと始まった取り組みは、退職した先生方や地域のみなさんの協力で12年目を迎え、2010年度は26人の子どもたちが参加しました。年19回の学校での貴重な体験は、今後の人生にいかされることでしょうか。最終回の修了式が大震災の影響で中止になったことが残念でした。



## 文化鑑賞会「クオレ」は設立10周年。 鑑賞者がのべ5万人を突破

“すぐれた芸術や文化を共同購入しよう”と1999年に発足した会員制の文化鑑賞会「クオレ」。月会費（月1,575円）で、年3～4回の例会に参加できます（他に2010年度は「特別ミニ企画」2回開催）。10年間で35例会になり、鑑賞者はのべ54,822人に達しました。会員は249人増えましたが大震災後には退会も多く、2年ぶりに2,000人を割り込みました。

第37回例会 世界無形遺産 人形浄瑠璃  
**文楽**（県民会館と提携）

とき 2011年  
9月27日(火) 13:30/18:30  
9月28日(水) 13:30/18:30  
4回公演

ところ 岩手県民会館  
大ホール

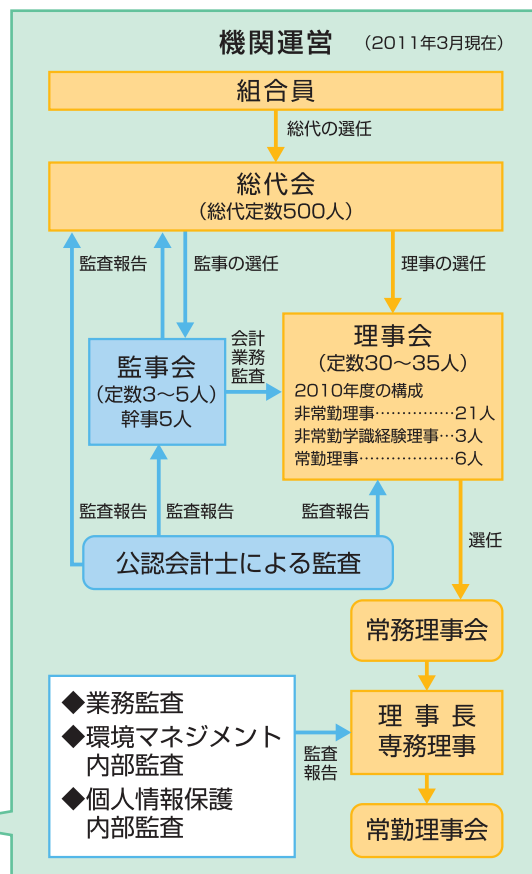
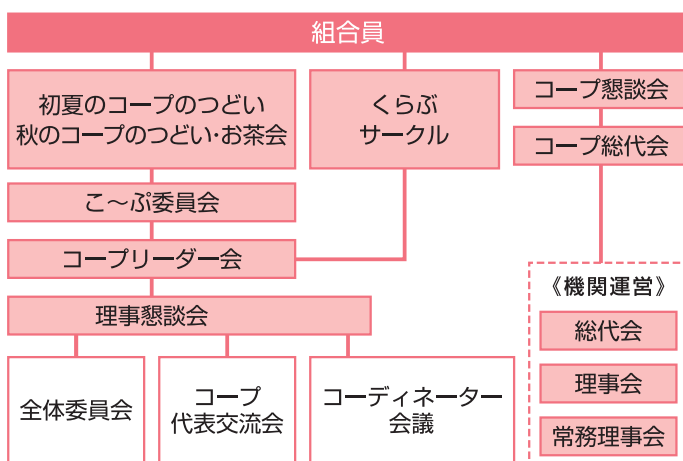
2011年9月には、初の文楽公演も決定しています。

### いわて生協の機関運営

生活協同組合は、組合員の「出資」「利用」「運営」が原則です。この原則に基づき、いわて生協は最高議決機関である総代会へ組合員の意見の反映を図ることと、運営への組合員参加を豊かに多様に進めることを通じて組合員自身の組織運営を重視しています。

2010年度もひきつづき執行機関である理事会機能の強化、監事会及び公認会計士監査を通じた監査機能の充実を図ってきました。

#### 《組織運営》



### 「新たな参加といきいきした活動へ」16地域（コープ）で運営

#### コープ総代会・コープ懇談会

コープ総代会は通常総代会前に多くの組合員が話し合う場として、県内16コープ（地域）ごとに開催します。2010年度は1,766人が参加。また次年度の計画づくりの場としてコープ懇談会を開催。2011年2月の懇談会には2,382人が出席しました。



コープ総代会で活発に意見を出し合います。



2月コープ懇談会では、計画づくりの話し合いのスタートとして重視。

#### コープのつどい・お茶会

おうちで開催する「初夏のコープのつどい」2010年度は1,468か所で行われ、5,336人が参加。会場に集まる「秋のコープのつどい」は、会場設定や参加よびかけの工夫で500会場に6,245人参加、参加者増になりました。また、3人以上の組合員が集まって話し合う「お茶会」は1,933か所で開催されました。

#### コープリーダー会・こ〜ぷ委員会

コープリーダー会は各コープ（地域）のくらしや組合員の思いに沿って計画をつくり活動をすすめます。コープリーダー会のもとでこ〜ぷ委員会が活動しています。2010年度は全県で159委員会・900人が活動し、自主的な「地域企画」が125企画に広がりました。



## 内部統制の方針・構築をすすめ、運用を開始

いわて生協の事業・経営の質を高め、新しい発展軌道にのせる基盤づくりの一つとして、①業務の有効性及び効率性、②財務報告の信頼性、③事業活動に関わる法令等の順守、④資産の保全の4つの目的を達成するため、内部統制システム構築を計画的にすすめてきました。

### 法令順守体制の整備を進めました

法令で規定されている「許認可・免許保持者配置・届出」を必要とする事項が、適時・適切に手続きされ対応できていることを担保するための「法規制への運用管理」を継続実施し、法令順守を確認しています。

### 業務上の保存文書を明確にしました

事務処理の適正化・能率化及び文書の管理を適切に行うことで社会的責任を果たすために「文書管理規程」を策定。これに基づき、全事業所・全部署で「保存文書管理表」を作成し、保存文書名・保存期間・保存形態等を明確にしました。定期的なメンテナンスを行うと同時に、運用実態を内部監査で点検しました。

### リスクを特定し管理する体制を整備しました

事業・経営に関わる281項目のリスクの洗い出し・分析と影響度評価を行い、41項目の重点リスクを特定しました。この重点リスクへの対策・改善対応を組織的にすすめ、リスク低減に向け取り組んできました。

### モニタリングで運用実態を点検しています

内部統制が有効に機能しているかを確認するために、モニタリング方針（モニタリングの種類とその内容）を決めました。モニタリングを行っています。4つの目的を実現するための内部統制が有効に機能しているかを、モニタリングしました。

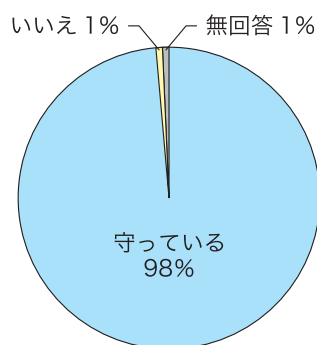
### 監査員が全54事業所・部署を内部監査

監査結果は、全体として「向上」と評価できる内容でした。なお、19事業所で29項目の是正指示が出ましたが、事業や業務に大きな負荷となる内容ではなく、すでに改善・対応を終了しました。

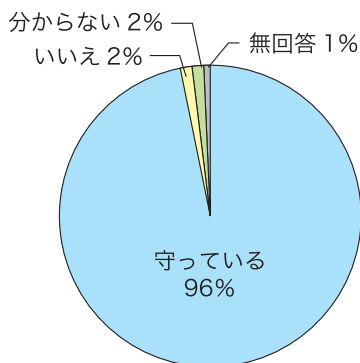
## 全常勤者（1,965人）セルフチェック結果

「全常勤者のセルフチェック」は、コンプライアンス（倫理・法令の順守）項目を中心に行いました。セルフチェックを通して「常勤者本人の振り返りと重要性の再認識」、「職場（部門・チーム）のコンプライアンス実態把握」を行いました。

あなたは、法令や社会的なルール、生協内の規則・ルールを守っていますか？



あなたの職場では、法令や社会的なルール、生協内の規則・ルールが守られていますか？



あなたの職場の「倫理・法令の遵守」「生協内の規則・ルールの順守」レベルは、昨年の今ごろと比べて良くなっていますか？

